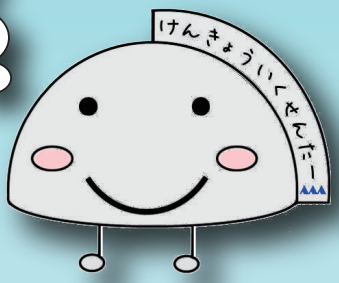
ユニバーサルデザインの視点を取り入れた
授業づくりハンドブック

みんながわかる!
ユニバーサル UD デザイン の授業で
みんなができる!

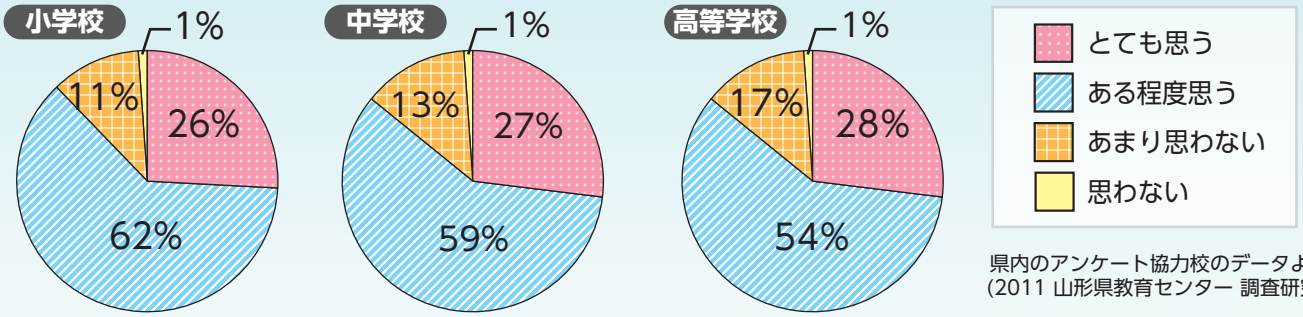


県教育センター
イメージキャラクター
「せんたん」

アンケート調査から

下の円グラフは、平成23年度に県教育センターで、県内小学校教員169人、中学校教員208人、高等学校教員304人を対象に実施した「ユニバーサルデザインの学級づくり・授業づくりに関する調査(アンケート)」の結果の一部です。どの学校種においても、8割以上の教員が、以前に比べて指導に困難さを感じる児童生徒の数が増加したと思うと回答しており、日頃の指導に課題を抱えている状況がわかりました。

Q 学級づくりや授業づくりにおいて、指導の困難さを感じる児童生徒が増えてきていると思いますか?



県内のアンケート協力校のデータより
(2011 山形県教育センター 調査研究)

そこで、本ハンドブックでは、「すべての児童生徒がわかる喜びや学ぶ意義を実感できるために、配慮を要する児童生徒には『ないと困る支援』で、他の児童生徒にも『有効な支援』を、学級の実態、教科の特性、指導場面などに合わせて工夫した授業づくり」(ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり)を目指し、小学校・中学校・高等学校における授業改善のための7つの視点を提案します。

山形県教育センター

配慮を要する児童生徒には『ないと困る支援』で！
他の児童生徒にも『有効な支援』を！

小・中学校の通常の学級
発達障害の可能性のある
児童生徒 **6.5%**

通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査
（2012 文部科学省）

通常の学級（小・中・高）

配慮を要する児童生徒に対して、適切な支援や配慮を行いたい！

その一方で、学級のすべての児童生徒に、基礎基本的な知識・技能、思考力、判断力、表現力等を育てたい！

特別支援教育の重視

生きる力の育成の重視

このような課題に対応するために

段階的な支援体制づくり

第3次支援（より実態に合わせた個別の指導）
特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに対応

第2次支援（学級での個別の配慮）
配慮を要する児童生徒のニーズに対応

第1次支援（学級でのUDの視点を取り入れた授業）
すべての児童生徒のニーズに対応

すべての児童生徒がわかる喜びや学ぶ意義を実感できる授業を目指して！

ユニバーサルデザイン(UD)の教育

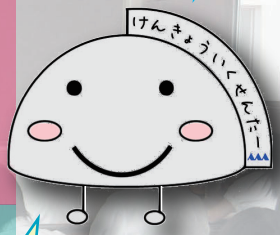
UDとは、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能なデザインを行うことです。

これを教育に当てはめ、「すべての児童生徒にとって『わかる、できる』を保障する授業をデザインすること」を目指しています。

UDの7つの視点を、7色の色鉛筆でイメージ化しました。

まず、学級づくりの3色で、授業づくりの土台をデザインします。

そして、授業づくりの4色で、実際の授業づくりを進めるための手立てをデザインします。



どの色鉛筆をどれくらい使うかは、学級の実態や教科の特性、授業のねらいなどに合わせて考えます。

UDの７つの視点を取り入れた授業づくり

ユニバーサル
UDデザイン の７つの視点 活用インデックス

こんな学級・こんな授業にしていきたい！

■インデックスをもとに、7つの視点のページを開いてみましょう。
学級づくりや授業づくりの上で活用してみたいと思う視点から始めてみましょう。

学級づくり

	インデックス
□先生や友だちの話をしっかりと聞くことができる学級にしたい。	2 3 4 5
□友だちとよりよい関係を築ける学級にしたい。	1 2 3
□進んで活動に取り組める学級にしたい。	1 2 3 4
□一人一人が安心して落ち着いて過ごせる学級にしたい。	1 2 3
□目的意識を持ったまとまりのある学級にしたい。	2 3
□忘れ物の少ない学級にしたい。	1 2 4 5
□思いやりを持って支え合える学級にしたい。	2 3
□問題やトラブルの少ない学級にしたい。	1 2 3 5
□困ったことを相談したり助け合ったりできる学級にしたい。	2 3
□学びやすく生活しやすい学級にしたい。	1 2 3 4
□整然としたわかりやすい教室環境にしたい。	1 2
□児童生徒の実態把握を大切にした学級経営をしたい。	2 3

授業づくり

	インデックス
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1 2 4 5
□学習内容をわかりやすく理解させる授業にしたい。	4 5 6 7
□児童生徒同士がかかわり合う授業にしたい。	1 3 4 5
□自信を持って自分の考えや思いを発表できる授業にしたい。	3 4 5
□学習習慣を身につけさせながら授業を進めたい。	2 4 6
□様々な児童生徒の学び方に合わせて授業を進めたい。	3 4 5 7
□笑顔や言葉が飛び交う授業にしたい。	3 4 5
□しっかりと発問や指示が伝わる授業にしたい。	5 6 7
□児童生徒が主体的に授業に取り組む授業にしたい。	4 5 6 7
□毎時間の学びを積み重ねられる授業にしたい。	4 6 7
□興味や関心をきちんと持たせて授業を進めたい。	1 4 5 7
□児童生徒の力を十分に発揮させる授業にしたい。	3 4 5 7

■裏表紙の「UDの7つの視点一覧表」も併せて参照ください。